

馬具櫓

馬具櫓は馬具の保管庫として使われていたと考えられていますが、それを裏付ける記録はありません。江戸時代（1603-1867）には、ここに下馬橋と呼ばれる木造の橋が架かっていました。下馬橋は、城の重要な入り口（おそらく大手門も）を見下ろす場所に位置していたことから、戦いの際には防御の役割も果たしていたと考えられます。

元の建物は、1877年の西南戦争の際に反乱軍の攻撃に備えて解体され、石造りの台座部分は砲台に改造されました。現在の建物は2014年に復元されたものです。2016年の地震では構造物の下石垣が座屈し、余震でついに倒壊しました。